

中四国地連女性協定期大会

ジェンダー表現について 勉強会を実施

9月3日、2023年度
中四国地連女性協定期大会
が広島市で開催されました。
今回は、新聞労連の協

力を得て「失敗しないため
のジェンダー表現」と題し
た勉強会を実施。リモート
参加も含め二六人が聴講し
ました。

講師は、全徳島新聞労組
の乾栄里子さんと中国新聞
労組の小林可奈さん。記者
としての豊富な経験をもと
に、問題のあるジェンダー
表現の事例について解説し
ていただきました。

まず取り上げられたのは、バスケットボールカ
ップでの日本代表の快挙を
受け、スポーツ紙やテレビ
で連発された「男泣き」と
いう表現。「男泣き」とは
女と違い本来は泣くもので
ない改めて考えると、男は
めぐっては、被害

はないという前提を感じま
す。よく耳にする「内助の
功」「女房役」「家族サ
ビス」等々。どれも固定
された男女の役割
分担や「男らしさ」「
女らしさ」を前
提にする表現で、
メディアが何も考
えずに使い続ける
ことで、その固定
観念を再生産して
いると講師は指
摘。時代に合わせ、
私たちが感性をア
ップデートしていく
く必要性を痛感し

者の服装への不必要的言及
や防犯面の強調など「被害
に遭うほうに落ち度があ
る」という無意識の偏見が
胸にぐさりと刺さるような
や防犯面の強調など「被害
に遭うほうに落ち度があ
る」という無意識の偏見が
胸にぐさりと刺さるような
にあります。

男女問わずいかに多いか、
胸にぐさりと刺さるような
『奥様』と呼び掛けてしま
うがどう言い換えたらよい
かなどの質問が寄せられ、
「すぐに変えることはでき
ません」となりました。

(前)中四国地連女性協議書記
長 藤井英里子



質疑応答も活発に行われた

なくても、よりよい言葉を
模索していくことが大事で
は?」など双方の意見交換
も行われ、同じメディアで
働く者同士の貴重な交流の
場となりました。